

枕草子すまゝ

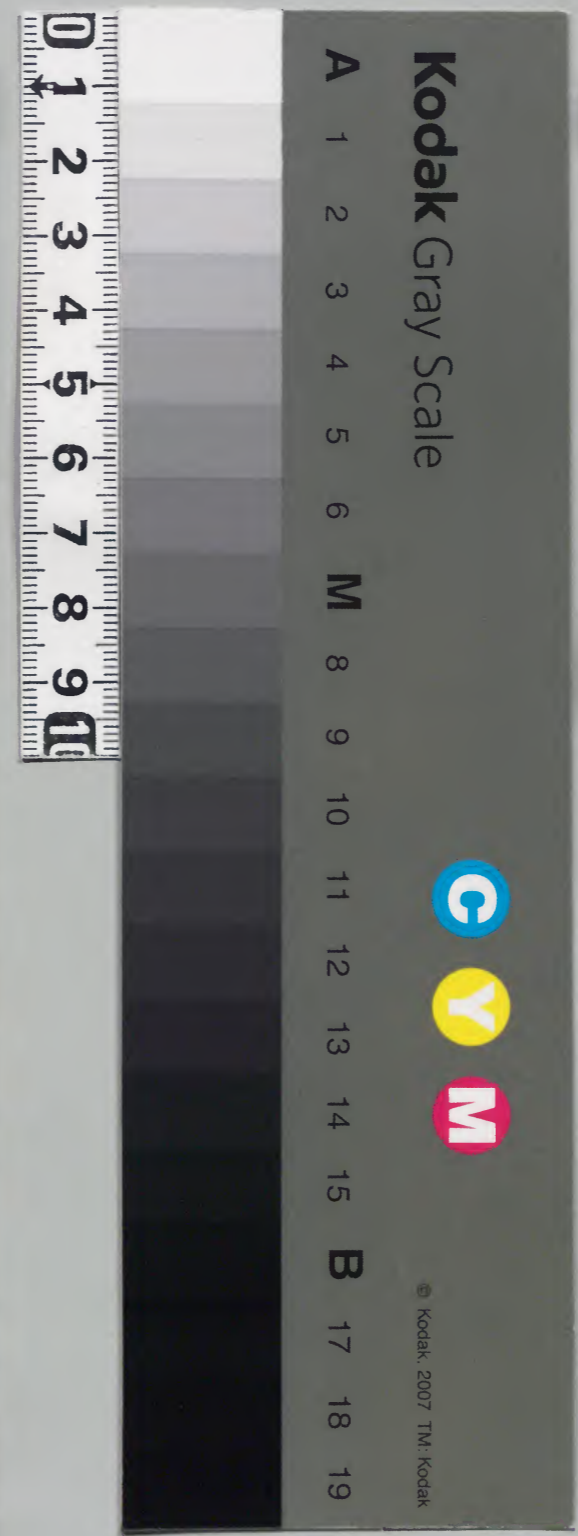
十一

たうとき物
かりきぬ
下りさぬ
神
さらき物
歌
ひと
扇の巻
さしぬき
わるき物
ひあき

内閣文庫	和書類
二六七八	二六七八
一三冊	一三冊
二架	二架

和書門	二六七八
七五函	七五函
二架	二架
一三冊	一三冊

内閣文庫	和	26708
冊数	13	(12)
函数	203	88



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or notes, located in the upper left section of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or notes, located in the middle left section of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or notes, located in the lower left section of the page.

Main body of handwritten text in a cursive script, organized into several horizontal lines across the right page.

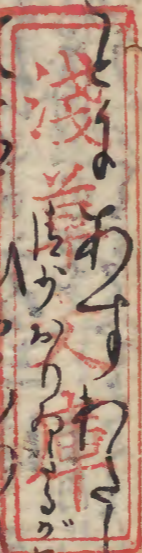


此経乃事...
 おり...
 中興白...
 おりの南...
 おりの南...
 おりの南...
 おりの南...

蒙乃勝...
 蒙乃勝...

おりの南...
 おりの南...
 おりの南...
 おりの南...

此経乃...
 おり...
 おり...
 おり...
 おり...
 おり...



おりの南...
 おりの南...
 おりの南...
 おりの南...
 おりの南...
 おりの南...

神を
 神を
 神を

奇ハ
 奇ハ
 奇ハ

奇ハ
 奇ハ
 奇ハ

車乃と云ふ 伊用と陸家
乃すなれあがりのせよ
西のまじ

これいふれと云うにま
いふれと云うにま
いふれと云うにま
いふれと云うにま

女院を 女院と云
二条院 淳子 一巻院の
母なり

女院の車 女院と云
女院の車 女院と云
女院の車 女院と云
女院の車 女院と云

女院の車 女院と云
女院の車 女院と云
女院の車 女院と云
女院の車 女院と云

女院の車 女院と云
女院の車 女院と云
女院の車 女院と云
女院の車 女院と云

女院の車 女院と云
女院の車 女院と云
女院の車 女院と云
女院の車 女院と云

女院の車 女院と云
女院の車 女院と云
女院の車 女院と云
女院の車 女院と云

あひく

かすみわらふ。女房のらうぐくろ白ひ

あひく。きざりおろき。のう衣

あひく。おめり。うらうら。あひく。

あひく。関白殿。ははは。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

あひく。おめり。おめり。おめり。

アラスカ 青未濃裳 裙帯 領巾や来女のおまじ

えひく。おめり。おめり。おめり。

えひく。おめり。おめり。おめり。

えひく。おめり。おめり。おめり。

えひく。おめり。おめり。おめり。

えひく。おめり。おめり。おめり。

えひく。おめり。おめり。おめり。

えひく。おめり。おめり。おめり。

えひく。おめり。おめり。おめり。

えひく。おめり。おめり。おめり。

えひく。おめり。おめり。おめり。

さうのらふまゝありの
らん人
髪のおしろをちぢり
ー毛しろけをいじ
西きかぬやうなをて
くみかまふもえん
とこ

車のちぢり

女房の車どろり牛
とやとめて櫛くま
をかろとまきあつ
こまうにけりい
けりつらんとも
さぬ

こららののびして
樂よ高麗の糸唐の
糸とてあり捨屋
あ

のらぬ人あいらん人
あまふらう
よかれはふまうらん
ふあかゆるはこ
のちぢりも人
つるふらう
はきこころ
さぬよう
のらぬ人
みこぬ大さ
らぬう物

人給

らぬう物
はきこころ
さぬよう
のらぬ人
みこぬ大さ
らぬう物

ひきこのらぬやう
のらぬ人
かけ
てい
よせ

ひきこのらぬやう
のらぬ人
かけ
てい
よせ

ひきこのらぬやう
のらぬ人
かけ
てい
よせ

ひきこのらぬやう
のらぬ人
かけ
てい
よせ

ひきこのらぬやう
のらぬ人
かけ
てい
よせ

ひきこのらぬやう
のらぬ人
かけ
てい
よせ

のらぬ人
かけ
てい
よせ

ひきこのらぬやう
のらぬ人
かけ
てい
よせ

ひきこのらぬやう
のらぬ人
かけ
てい
よせ

まのまりちりこころい
ほかの死て下すや一何
ては車の虎よりゆり
人よかり多しどせら
れもちりちりや

車の鹿の人もほり
かきくむむむむむむ
後ひてまきりむむむ
かりせれむむむむむ

大物一敷の袋ひきり
ふきまきりむむむむ
まきりむむむむむむ
かりてむむむむむ

むむむむむむむむむ
まきりむむむむむむ
のふむむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

象眼唐乃まきりむむ
まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

見られぬむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

まきりむむむむむむ
まきりむむむむむむ

け中ハハ衣衣と上
 近赤陣を引く禁
 中ハハハハハハハ
 縮をうりてハハハ
 俄ハハハハハハハ
 物をさりてハハハ
 せハハハハハハハ
 法僧如とのまハハ
 僧正 僧部 律師を
 僧綱として僧部を
 僧綱の中ハハハハハ
 僧部 律師を
 僧綱として僧部を
 僧綱の中ハハハハハ

大初名を師より
 法舎のまハハハハ
 大初名を師より
 法舎のまハハハハ

國自教皇使ハハハハ
 法僧如とのまハハ
 僧正 僧部 律師を
 僧綱として僧部を
 僧綱の中ハハハハハ
 僧部 律師を
 僧綱として僧部を
 僧綱の中ハハハハハ

大初名を師より
 法舎のまハハハハ
 大初名を師より
 法舎のまハハハハ

何れも...
胡床アブラ勝る茶
枕のしらひお使成
きんぎょ

あつれりりてのち
左のさう別記禁
中へりりてのち入信
あつれりり

て作せのさうとて
せのしらすイまんす
帯のほさまきんぎょ
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち

乃子髪おきやうあつ
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち

あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち

位乃若人全らもりり
ぐりりりりりりりり
きんぎょ

あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち

あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち

あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち

あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち

あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち

あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち

あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち
あつれりりてのち

心からか 心のり

ついでに心相違なり

九條錫杖 不空三藏の

作一ましありそ

えりせを付て聲明

よする事し錫杖の

おし成佛とすよ

念佛の廻向 光明通那

有心人云廻所作業

舟と 舟の神物也

移るる門 今や

移るる門の心と

移るる門の心と

神系高 舟の神

舟系の神物也

今や一 今橋舟と

乃都布良江 玉

大鳥八女 我門

文ひ乃乃

桃母葉葉

を控の物と

アアアア

アアアア 音深

アアアア 表白表

アアアア の心

アアアア の心

アアアア の心

アアアア の心

アアアア の心

アアアア の心

アアアア の心

アアアア の心

アアアア の心

えとせまは心おちぬ

九条とやうぢやう

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

念佛の廻向

あつちのちのちあつち
と練るのちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち

あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち
あつちあつちあつち

下下紫 下下紫 下下紫
乃人八綾を日ゆ惟新
の人も平縮し胡曹か
了れま

きいかにねし
そのはにーひねりね
ねまこつるあめさうさ

桃葉重雲 桃葉重雲 桃葉重雲
蹴躑の打下紫 蹴躑の打下紫 蹴躑の打下紫
すわらね 桃葉重雲 蹴躑の打下紫
乃さし 蹴躑の打下紫 蹴躑の打下紫
あまのり 蹴躑の打下紫 蹴躑の打下紫
あまのり 蹴躑の打下紫 蹴躑の打下紫
あまのり 蹴躑の打下紫 蹴躑の打下紫

八寸六枚 八寸六枚 八寸六枚
白糸をそとてく糸
乃あかりを敷のたを
さき物ありてかまれうり二三寸持たをのこす。某者乃時ハまも指
扇をおき畧置られた一室敷男乃柱扇をまもむまもむまもむまもむまもむ
柱扇をまもむまもむまもむまもむまもむまもむまもむまもむまもむまもむ
すけくも男ゆかまの柱扇をまもむまもむまもむまもむまもむまもむまもむ
びとん 子地のもはせ

松尾 三代實録十三日
觀八年十月九月進山
城國松尾神階加正一
延喜式九月山城國葛野
郡松尾神社二座。北社
次身曰松尾大山咋神
杵島姫神 今社次説言
第一松尾社第二月讀社
第三標合社第三三宮
第五宗像社第六大神社
第七衣手社
八幡のふのふのふの
人二十代海神とて

三社
神功皇后 玉依姫 員觀兒
年九月十九日 行教和尙
於男山深建五中下寮
大原師 去首は字を末祥
三年 又開院を大原次嗣
わが神 去首を勸修寺

めい... かく... かく... かく...
てお... かく... かく... かく...
かく... かく... かく... かく...
かく... かく... かく... かく...

三社
平野 延喜式 第一日 平野神四座祭
秋... 延喜式 第一日 平野神四座祭
平野 延喜式 第一日 平野神四座祭
秋... 延喜式 第一日 平野神四座祭

かく... かく... かく... かく...
かく... かく... かく... かく...
かく... かく... かく... かく...
かく... かく... かく... かく...

三社
平野 延喜式 第一日 平野神四座祭
秋... 延喜式 第一日 平野神四座祭
平野 延喜式 第一日 平野神四座祭
秋... 延喜式 第一日 平野神四座祭

かく... かく... かく... かく...
かく... かく... かく... かく...
かく... かく... かく... かく...
かく... かく... かく... かく...

いふ漏剌をもち若る
 く。此時に徒敷を
 らふ。彼より其の
 一刺より左近衛家の
 するに友人等の二刺の
 より時を来せし。其の
 一刺より近衛家を
 相産するに近衛のつら
 のよおのしし。乃て是き

いふ漏剌をもち若る
 く。此時に徒敷を
 らふ。彼より其の
 一刺より左近衛家の
 するに友人等の二刺の
 より時を来せし。其の
 一刺より近衛家を
 相産するに近衛のつら
 のよおのしし。乃て是き

いふ漏剌をもち若る
 く。此時に徒敷を
 らふ。彼より其の
 一刺より左近衛家の
 するに友人等の二刺の
 より時を来せし。其の
 一刺より近衛家を
 相産するに近衛のつら
 のよおのしし。乃て是き

成信中将の入る者
 のまはれぬ。
 源成信。其部は平祝
 とは。長徳元年。左中将
 およ人のとをよりけ
 きのひりへき

あをりし。そのとき
 成信の直衣。そのとき
 うしし。そのとき
 夏より。そのとき
 わり。そのとき
 ひり。そのとき
 心を。そのとき
 まを。そのとき
 物を。そのとき
 事を。そのとき
 人を。そのとき
 平氏。そのとき

その時の
 日乃
 かね
 みる
 くれ
 る
 ね
 せ
 ね
 せ

いふ漏剌をもち若る
 く。此時に徒敷を
 らふ。彼より其の
 一刺より左近衛家の
 するに友人等の二刺の
 より時を来せし。其の
 一刺より近衛家を
 相産するに近衛のつら
 のよおのしし。乃て是き

いふ漏剌をもち若る
 く。此時に徒敷を
 らふ。彼より其の
 一刺より左近衛家の
 するに友人等の二刺の
 より時を来せし。其の
 一刺より近衛家を
 相産するに近衛のつら
 のよおのしし。乃て是き

成信中将の入る者
 のまはれぬ。
 源成信。其部は平祝
 とは。長徳元年。左中将
 およ人のとをよりけ
 きのひりへき

あをりし。そのとき
 成信の直衣。そのとき
 うしし。そのとき
 夏より。そのとき
 わり。そのとき
 ひり。そのとき
 心を。そのとき
 まを。そのとき
 物を。そのとき
 事を。そのとき
 人を。そのとき
 平氏。そのとき

月三十三日
廊方寄るの百の
おとよびておとよび
おとよび

月三十三日
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび

朗詠三五夜中

月三十三日
心又誰人誰人隴外隴外久延
成何處庭前庭前別離

おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび

おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび

おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび
おとよびておとよび

うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし

きくくくくくく
威儀正しき
いある
大将の赤い

うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし
うしうしうしうしうしうし

きくくくくくく
大将の赤い

孔在明王の法也大苑編
目指要録四孔在經三
卷の安底比丘地獄足
痛阿難白佛乃説大
孔在神咒往救由是
殊勸諸天諸竜等各説神咒
安樂所承遂願如前廣説乃至自身及諸眷属壽命百年
孔在の衆の

大将の法はさきさきひひひひ
清修法はふ大尊
衆門休す
孔在經乃法後經
清修法はふ大尊
衆門休す

佛修はくふふふふ
修は降三世軍荼利大威徳金剛在中不動
衆人乃式のさうあをさうれ可かわらわら
衆門集々うらうら
衆人乃式のさうあをさうれ可かわらわら
衆門集々うらうら
衆人乃式のさうあをさうれ可かわらわら
衆門集々うらうら

彼書れ物れなる

て走るしよと志

ありしこいふは深

也。漢氏柱根葉より火

えをささけりて

さしひらき

あんな従者も

おつりし

はくつてちり

ふ、常れ居るを

あひらき

余雅云揚蒲柳也詩

義疏云蒲柳之木二種

一種皮正玉一種皮紅

正白葉は目長廣似

可為箭荷。唐志曰

揚一名高皮木葉大

於神也

けとせよとるんしぬり。志ある

あられいまりいさきりさるる物いせ

さうらうやゆりなれさしん人

けうんさうらうやゆれ

三月さうらうやゆり

おへのあがりつさくれ本ども

さうらうやゆりしゆりひ

やうらうやゆりしゆり

うらうらうやゆりしゆり

やりとつらさるるも

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

さうらうらうやゆりしゆり

は拾遺三つていふ
ちよせむのちのやう
てまふはさしとまふ
一りりかた

けしんふさへてねう
我西多とせし人事
とて笑てねう我を
ら臆しとれしもの
そめうとまう

馬がのさひきこ程
やうと申あひゆる
まのれつれをさう
里居しゆふとよふ
也とてまふとまふを小
くめしとまふとまふ

こよひのれいがか
百重とていひ一其
や將り世よりあふ
わてうせや志ゆん
くくくくくくくく
里にけりてとまふ

我古の志よかりぬ
山ちよせむのちの
寺乃入おの清れ
とめいよふとまふ
昔上りてまふとまふ
後多かれを山道
清の志とてけしと
清の志とてけしと

もスーきも居れと奇
りうくめまふとまふ
次の清もけりて
はげけまふとまふ
こまのす越とまふ
これうまふとまふ

ちすのれびぐ散
のれびぐとまふ
ちのれびぐとまふ
初夜のとまふとまふ

作せしものさあは
すれどけりせん事
中らうとまふとまふ
とまふとまふとまふ
あり侍しんずん
とまふとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ

あり侍しんずん
とまふとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ

おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ

おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ

おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ

おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ

おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ

おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ
おとまふとまふ

初夜のとまふとまふ

おとまふとまふ

月影のそよよと
ある如くかよひのま
あり。ほろのふらふら
まづ

らんくくくくく

朗詠八月十五夜

秦甸之一千餘里

水鋪凍へ寒白白

月のあやうりある乳の

うつれへ秦甸の底き

田るささく冷ま

氷を敷るやうに

文の内みれ

店宮ちのの内たか

りさうつこのの

をかめ

ハ我をえれらへんお

れをいへん我書

るあしめが橋

らがりーとえ門べー。月影乃ち
あるまづらうとあつたすざり入るるをひき
見のうさし其のまをりつたす
よせあつたまをなれり笑ふをわら

らんくくくくくわらわらけりこり詩を

ひきくづんぢくおとすいん

かうてはわーもほりまかりきり

くあ乃ちうくあもは

今やばくする人いり生あつたりてま

り店るうめてま

事どもかまははるる合せ

君も家あははるる

春曙抄十一終

